高等学校における運動部加盟・運動部員の変動について ― 広島県高等学校体育連盟の資料から ―

平松　携・藤岩秀樹

概要

1946（昭和 21）年 4 月 20 日、広島県中等学校スポーツ連盟が結成される。現在の広島県高等学校体育連盟の前身である。本稿では 1955 年当時の広島県高等学校における運動部の設置状況、1989 年から 2018 年までの各運動部の加盟率とその動向、第 73 回国民民体育大会出場と運動部との関連についてみた。

キーワード：高等学校体育連盟、運動部員、加盟率、スポーツ分類、国民体育大会

目次

1　はじめに
2　研究目的
3　研究の方法
4　研究の結果
5　おわりに

1. はじめに

1945(昭和 20) 年 7 月 6 日、ポツダム宣言発表される。同年 8 月 6 日、広島市に原子爆弾が投下された。同年 8 月 14 日、日本はポツダム宣言を受諾し、同年 8 月 15 日に太平洋戦争は終結した。

原爆投下により広島市内やその周辺の被爆地域では、およそ 35 万人の広島市民・軍人がいたと推測され、1945（昭和 20）年 12 月末までに原爆によって約 14 万人が死亡したと推

計されている[1)]。

広島市の中等学校教育現場の様子について、「広島県高体連 20 年の歩み」によると、当時を以下のように綴っている。「1945 年 8 月 6 日に原爆の洗礼を受け人心は動揺し、その混乱はまさに言語に絶するものであった。教師や生徒は焼失した校庭に集まり、学校再建の準備を黙々として進めた。そのきざしが見えてきた 1945 年 10 月 3 日に広島市に占領軍が進駐することになり、女子生徒の登校は見合わせるというような状態であった。占領軍の管理下にあった行政は、いたるところで困難はつづいた。」[2)]

福山市においても空襲の被害で多数の死者があった。中学校・高等女学校等の授業が再開されるまで日数を要した学校もあった。授業が再開されたものの教科書の焼失や文房具の不足、福山誠之館中学の運動場は食糧難で芋畑になっていたが、陸上部 OB や陸上部員の手によって運動場に復元された。体操器具がなく他校に出向いて練習した中学生、運動用具が不足して練習が十分にできない学校等の苦労話等を、当時の教師や中学生から著者は聞いた。

広島県高等学校体育連盟結成の過程をみると、1946（昭和 21）年 2 月 10 日、広島市付近の中等学校体育関係者が集まり、戦後初めての学校体育研究検討会が開かれた[3)]。出席者ならびに協議題は、次の通りである。

出席者は、吉岡隆徳（広島文理大助教授）、岡田俊彦（広島高等工業助教授）、林 弘（広島第一中学教諭）、武田 馨（広島第一高女教諭）、宮里正治（広島第二中学教諭）、石本松人（広島商業教諭）、青木親善（修道中学教諭）、久保専三（広島市立高女教諭）、諸岡真三（呉第一中学教諭）、山崎正晴（呉第一高女教諭）である。

協議事項は、以下の 4 点であった。

1. 終戦に伴う「体練科教授要項の取扱いに関する件」について検討
2. 学校体練科関係事項処理徹底に関する件」について具体的な研究
3. 大日本学徒体育振興会広島支部解消についての説明
4. 学徒の自主性を基調とする学校体育の民主団体結成についての研究

上記の協議題について中等学校体育関係者を中心に、敗戦から復興への熱い思いから、全国に先駆け学校体育の民主団体結成の準備が始まった。そしてわずか 2 ヶ月後の 1946（昭和 21）年 4 月 20 日に広島県中等学校スポーツ連盟は結成された[4)]。

広島県中等学校スポーツ連盟の規約を見ると、事務所は広島県庁学務課内に置き、連盟の目的は県下中等学校スポーツの健全な普及発展を図るとある。事業は、①スポーツに関する根本方針の審議ならびに調査研究、②体育関係諸機関への連絡、③各種目別スポーツ大会・体育運動行事の開催、④スポーツ器具・資材の配給斡旋である。

組織は、各学校々友会運動部をもって組織する地域別の団体の連合体とする。役員は委員長に数田猛雄（広島第一中学校長）、副委員長に古田貞衛（広島地区）及び吉岡隆徳（広島

県体育運動主事 元広島文理大助教授）他 4 名、委員は主任に武田 馨、副主任 1 名、他委員 6 名、実行委員は競技団体別代表（陸上競技、水泳、バレーボール、バスケットボール、蹴球、送球、卓球、ラグビー、ソフトボール、相撲、体操、庭球、野球）であった[5)]。

そして広島県中等学校スポーツ連盟は 1946（昭和 21）年 6 月に広島県体育協会に加盟手続きを行い、広島県体育協会（1946 年 7 月 30 日広島県体育協会再発足）の加盟団体となった[6)]。

同年に日本国憲法（1946 年 11 月 3 日）の公布、教育基本法（1947 年 3 月 31 日）、学校基本法の公布により、学校教育制度が「6・3・3・4 年制」となり、1948（昭和 23）年 5 月に広島県中等学校スポーツ連盟は発展的に解消し、広島県高等学校スポーツ連盟と改称した。同年 1948（昭和 23）年 6 月 28 日に全国高等学校体育連盟が創立され、広島県高等学校スポーツ連盟は全国高等学校体育連盟に加盟し、広島県高等学校体育連盟（以後「広島県高体連」という）の名称となり今日に到っている。

太平洋戦争後の学校における運動部の対外競技や指導に関する文部省・文部科学省の通知文（公文書）は、以下のとおりである。

「学徒の対外試合について」（文部省体育局長通達、昭和 23 年 3 月 20 日付、発体 75 号）、「学徒の対外競技について」（文部事務次官、昭和 29 年 4 月 20 日）、「中学校、高等学校における運動部の指導について」（初等中等教育局長、1957（昭和 32 年 5 月 16 日付、文初中 275 号）、「中学校、高等学校における運動クラブの指導について」（文部省体育局長通達、昭和 43 年 11 月 8 日付、文体体 223 号）、「児童・生徒の運動競技の基準」（文部省事務次官通達、昭和 44 年 7 月 3 日付け）、「対外運動競技の定めについて」（昭和 47 年 1 月 28 日、給実乙第 150 号）、「対外運動競技の定めについて」（文部省初等中等教育長から各都道府県教育委員会あて、昭和 47 年 2 月 9 日、文初財 124）、「児童・生徒の運動競技について」（文部省事務次官通達、昭和 54 年 4 月 5 日付、文体体 81 号）、「中学生の国民体育大会への参加について」（文部省体育局長、平成 6 年 1 月 17 日、文体体 162 号）、「中学校及び高等学校における運動部活動について」（文部省体育局長通知、平成 10 年 1 月 20 日、文体体 297 号）、「児童生徒の運動競技について」（画・体育課長通知、平成 13 年 3 月 30 日、12 ス企体第 6 号）、「中学生の国民体育大会の参加について」（文部科学省・青少年局長 文部科学省初等中等教育局長通知、平成 17 年 12 月 22 日、17 文科ス第 327 号）がある。

これらの体育・スポーツ行政の通知文は時代の変遷に伴ったもので、教育現場では高等学校の運動部活動に影響が現れていった。

2. 研究の目的

著者はこれまで広島県の高等学校で実践されてきた保健体育研究や運動部活動の動向につ

いて検討してきた。体育・スポーツ分野の現場教員による40年間に及ぶ研究発表[7]、さらには高等学校における運動部活動・体育的行事の動向などについて報告した[8]。

このような運動部活動の実態調査は、毎年実施されている全国高等学校体育連盟加盟・登録状況調査[9]がある。また、スポーツ庁が実施した平成29年度運動部活動等に関する実態調査報告書[10]がある。これらの調査は集計に止まり、継続的な考察・分析までには至っていない。

本研究は1946（昭和21）年に広島県中等学校スポーツ連盟結成された後、1955（昭和30）年から2018（平成30）年の63年間にわたる高等学校運動部の設置率や広島県高体連加盟率、スポーツの分類から見た運動部の動向、さらには国民体育体大会出場と運動部との関わりについて、広島県高等学校体育連盟の資料を中心にその一端を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

3.1. 研究資料

広島県高等学校体育連盟調査資料及び第73回国民体育大会広島県出場者名簿等とした。

3.2. 研究の分析内容

1）1955年当時の高等学校運動部の設置状況
2）運動部の設置率の変化
3）1989年から2018年までの各運動部の加盟率
4）スポーツの分類から見た運動部の動向
5）運動部と第73回国民民体育大会出場

4. 研究の結果

4.1. 1955（昭和30）年当時の高等学校運動部の設置状況

1946年4月に広島県中等学校スポーツ連盟が結成された。当時の実行委員(競技種目代表)は、陸上競技、水泳、バレーボール、バスケットボール、蹴球、送球、卓球、ラグビー、ソフトボール、相撲、体操、庭球、野球であった。

第1回広島県高等学校総合体育大会（1948年10月10日）は福山市を中心に広島市･呉市･三原市で開催され､陸上競技､水泳､硬式テニス､バレーボール､バスケットボール､ハンドボール、サッカー、卓球、ソフトボール、ラグビー、相撲、体操、野球（野球のみ試合結果は残ってない）の開催記録が残っている[11]。

表1は、1955年当時の広島県高体連加盟校の運動部設置状況である。

表1　1955(昭和30)年広島県高等学校体育連盟加盟校の運動部

	高校名	生徒数	陸上	水泳	バレー	バスケ	軟庭球	硬庭球	卓球	蹴球	ハンド	体操	ソフト	ラグビ	相撲	柔道	剣道	駅伝	山・スキ	ヨッ・ボー	運動部数
1	広大附属高校	540		○	○	○	○	○	○	○		○				○					9
2	皆実高校	856	○		○	○	○	○	○	○	○					○	○			○	11
3	国泰寺高校	1080(*550)	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○			○	○	12
4	観音高校	647(*164)	○	○	○				○								○	○			6
5	海田市高校	595	○		○		○	○	○							○		○			7
6	廿日市高校	650(*256)					○	○	○											○	4
7	大竹高校	800(*365)							○			○									2
8	津田高校	(*60)																			
9	大柿高校	385(*78)											○								1
10	可部高校	681(*120)	○		○		○	○	○	○		○				○					8
11	加計高校	346	○				○		○	○						○					5
12	八重高校	400(*66)	○				○		○												3
13	基町高校	825	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○		○		11
14	舟入高校	750	○	○	○	○	○	○	○	○						○					9
15	広島工業高校	1290	○		○	○	○		○	○						○	○	○			9
16	広島商業高校	640	○	○	○	○	○		○							○					7
17	広島市工業高	(*650)	○		○		○		○	○								○			6
18	広島市商業高	(*310)																			
19	西条農業高校	600(*191)	○		○		○			○				○	○	○	○	○			9
20	崇徳高校	745	○	○	○	○	○		○					○	○						8
21	広陵高校	400(*70)	○	○			○		○							○	○	○			7
22	松本商業高校	490(*76)	○		○		○		○									○			5
23	山陽高校	800(*300)	○		○		○		○	○		○				○	○			○	9
24	修道高校	1000(*120)	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○		○	12
25	広島電機高校	650	○		○		○					○				○					5
26	新庄高校	354	○				○		○												3
27	進徳高校	152	○	○	○		○		○												5
28	女子商高校	1012			○		○					○									3
29	女学院高校	700	○		○		○		○												4
30	鈴峯高校	833	○		○		○		○				○							○	6
31	山陽女子高校	300			○		○		○				○								4
32	祇園高校	490	○		○	○															3
33	比治山高校	300			○				○			○									3
34	安田高校	903	○		○			○	○			○									5
35	賀茂高校	961(*200)	○		○	○	○			○	○					○		○			8
36	広高校	1016(*414)	○	○	○	○	○		○		○	○				○	○				10
37	宮原高校	1445(*410)	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○				12
38	三津田高校	1200(*803)	○	○	○	○	○		○		○	○									8
39	阿賀高校	1284(*320)	○	○	○	○	○		○	○						○	○				9
40	音戸高校	370(*326)	○	○	○		○		○							○					6
41	呉港高校	500(*40)	○	○	○		○		○							○					6
42	清水ヶ丘高校	706																			
43	広大附福山高	410	○			○		○	○							○					5
44	誠之館高校	1100(*449)	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○			13
45	葦陽高校	648	○		○	○	○		○	○		○		○		○					9
46	松永高校	733(*140)	○		○	○	○		○			○	○			○					8
47	沼南高校	490	○	○	○		○		○							○		○			7
48	神辺高校	810(*229)	○		○	○	○		○					○		○					7
49	府中高校	1015(*241)	○		○	○	○		○				○								6
50	戸手高校	620(*70)	○	○	○	○	○		○									○			7
51	油木高校	504	○										○					○			3
52	上下高校	684	○				○		○							○	○				5
53	福山工業高校	700(*162)	○	○	○	○	○		○							○	○	○			9
54	盈進高校	1000	○	○	○	○	○		○		○					○		○			9
55	増川高校	900	○		○				○				○								4
56	門田高校	381	○	○	○		○		○				○			○					7
57	至誠女子高校	447	○		○				○				○								4
58	広島商船高校	160	○													○					2
59	三原高校	1070(*450)	○	○	○	○	○		○			○								○	8
60	尾道東高校	620	○				○		○			○				○					5
61	尾道北高校	840(*99)	○	○	○	○	○		○				○	○							8
62	尾道商業高校	816	○	○	○	○	○		○			○		○		○					9
63	竹原高校	813(*274)	○	○	○	○	○		○	○			○			○					9
64	本郷高校	644(*487)	○				○											○		○	4
65	忠海高校	677(*82)	○		○	○	○		○	○			○			○	○	○		○	11
66	大崎高校	845(*60)	○		○		○		○				○		○					○	7
67	御調高校	501	○		○		○		○							○					5
68	土生高校	742(*493)					○		○				○								3
69	世羅高校	600(*425)	○													○		○			3
70	瀬戸田高校	344	○	○	○		○		○							○					6
71	尾道南高校	(*200)																			
72	三原工業高校	950	○	○	○		○		○												5
73	方美高校	337																○			1
74	吉田高校	562(*473)	○		○	○	○		○												5
75	向原高校	520(*70)	○																		1
76	三次高校	1050(*346)	○		○	○	○		○												5
77	塩町高校	600(*167)	○		○		○		○							○					5
78	庄原高校	1200(*278)	○	○	○		○		○	○		○		○		○		○			10
79	東城高校	600(*235)																			
80	高南高校	(*219)																			
81	西城高校	(*356)	○		○											○		○			4
82	日彰館高校	650	○		○		○		○	○						○	○	○			8
	広島県高校の運動部設置数		67	29	59	31	61	12	63	19	7	19	16	8	4	43	15	22	2	10	計487

・「高体連第3号」広島県高等学校体育連盟、昭和32年5月発行より作成
(*)は定時制生徒数を表す。山・スキは山岳部・スキー部、ヨッ・ボーはヨット部・ボート部を表す

表 1 をみると、陸上競技、水泳、バレーボール、バスケットボール、軟式庭球、硬式庭球、卓球、蹴球、ハンドボール、体操、ソフトボール、ラグビー、相撲、柔道、剣道、駅伝、山岳・スキー、ヨット・ボートの 20 種目がある。1946 年から増加した競技は、硬式庭球、柔道、剣道、駅伝、山岳・スキー、ヨット・ボートがある。

運動部の設置が 8 部以上の学校を見ると、誠之館高校 13 部、国泰寺高校 12 部、修道高校 12 部、宮原高校 12 部、皆実高校 11 部、基町高校 11 部、忠海高校 11 部、広高校 10 部、庄原高校 10 部、広大附属広島高校 9 部、舟入高校 9 部、広島工業高校 9 部、西条農業高校 9 部、山陽高校 9 部、阿賀高校 9 部、葦陽高校 9 部、盈進商業高校 9 部、福山工業高校 9 部、尾道商業高校 9 部、竹原高校 9 部、可部高校 8 部、加茂高校 8 部、三津田高校 8 部、松永高校 8 部、三原高校 8 部、尾道北高校 8 部、日彰館高校 8 部の 27 高校である。

8 以上運動部を設置している高校は、戦前に設立された中等学校等の高校であり、運動場、運動器具・用具、教員の配置がある程度整っていたと思われる。木造校舎や講堂は建設されていたが、屋内競技場はこれから建設が進められる頃である。当時は競技種目を指導する教員も少なかったと考えられる。

4.2. 運動部の加盟率の変化について

表 2 は、広島県高等学校における 1955 年、1967 年、1989 年、2018 年の運動部加盟率である。

1955 年をみると 20 運動部で加盟率の高い順は、陸上競技（88.2%）、卓球（82.9%）、軟式庭球 (80.3%)、バレーボール（77.6%）、柔道（56.6%）である。

1967 年になると 31 運動部に増加している。加盟率の高い順は、男子が卓球（93.9%）、陸上競技（90.4%）、バレーボール（90.4%）で、女子がバレーボール（91.6%）、卓球（85.5%）、陸上競技（78.3%）である。新たな加盟は、弓道、バドミントン、フェンシング、洋弓（アーチェリー）等がある。男子のみ加盟はレスリング、重量挙げ、空手道があり、女子のみの加盟はダンス、なぎなたがある。また、広島県高等学校野球連盟（以下「広島県高野連」）の硬式野球、軟式野球も表に加わっている。

1989 年になると 33 競技（その他を含む）に増加している。加盟率が高いのは、バレーボール（99.3%）、卓球（97.0%）、陸上競技（96.3%）、バスケットボール（93.3%）、ソフトテニス（90.3%）、剣道（86.6%）、サッカー（79.9%）である。ここでは新たに自転車、同好会が加入している。

2018 年には 37 競技（その他を含む）となっている。加盟率の高い運動部は、陸上競技 (90.7%)、バレーボール（86.1%）、サッカー (79.8%)、バスケットボール（78.3%)、ソフトテニス (78.3%)、硬式野球（70.5%）、バドミントン（68.2%）、剣道（65.1%）の順である。

加盟率が上昇している競技は、バスケットボール、テニス、サッカー、硬式野球、弓道、

表2 広島県高等学校体育連盟運動部における加盟率の変化

全日制課程（公立・私立高等学校）（%）

		1955（昭30）年	1967（昭42）年		1989（平元）年	2018（平30）年
		男女	男	女	男女	男女
1	陸上競技	88.2	90.4	78.3	96.3	90.7
2	水泳　競泳	38.2	31.3	22.9	33.6	29.5
	水球・飛込				3.9	6.3
3	バレーボール	77.6	90.4	91.6	99.3	86.1
4	バスケットボール	39.5	69.9	65.1	93.3	78.3
5	軟式庭球	80.3	97.6	92.8	90.3	78.3
6	硬式庭球	15.8			40.0	46.5
7	卓　球	82.9	93.9	85.5	97.0	76.0
8	蹴　球（サッカー）	26.0	38.6		79.9	79.8
9	送球（ハンドボール）	9.2		13.3	23.9	14.7
10	体操　体操競技	25.0	53.0	50.6	33.6	11.6
	新体操				20.9	6.2
11	ソフトボール	20.1		40.9	39.6	32.6
12	ラグビー	10.5	8.4		13.4	12.4
13	相　撲	5.3	1.2		2.2	0.8
14	柔　道	56.6	69.9	1.2	73.1	32.6
15	剣　道	19.7	67.5	25.3	86.6	65.1
16	駅　伝	29.0	2.4			
17	山岳・スキー	2.6				
18	ヨット・ボート	13.2				
19	硬式野球		48.2		66.4	70.5
20	軟式野球		40.9		20.9	10.9
21	弓　道		13.3	13.3	22.4	34.1
22	山岳・登山		8.4	8.4	20.9	14.0
23	スキー		4.8	4.8	8.9	2.3
24	ヨット		3.6	1.2	5.9	2.3
25	ボート		2.4		5.2	3.1
26	レスリング		2.4		2.9	3.1
27	重量挙（ウェイトリフティング）		2.4		1.5	0.8
28	バドミントン		1.2	1.2	49.3	68.2
29	フェンシング		1.2	1.2	4.5	2.3
30	空　手　道		1.2		16.4	20.2
31	洋弓（アーチェリー）		1.2	1.2	10.5	9.3
32	応　援		1.2	1.2		
33	ダンス			4.8		
34	薙　刀			1.2		3,1
35	少林寺拳法				4.5	4.7
36	ボクシング				3.7	2.3
37	自転車				4.5	3.9
38	ホッケー					1.6
39	ゴルフ					4.7
40	同好会				24.6	
41	ライフル射撃					1.6
42	その他				20.9	17.8

・1955年は「高体連第3号」広島県高等学校体育連盟、昭和32年5月発行により作成
・1967年は「保健体育振興振興のためにⅡ」広島県教育委員会事務局、昭和45年2月発行により作成
・1989年は「高体連60年の歩み」広島県高等学校体育連盟、平成20年4月発行により作成
・2018年は 広島県高等学校体育連盟連盟資料により作成

バドミントン、空手道がある。加盟率が下降しているのが体操がある。

1955 年、1967 年、1989 年、2018 年の調査で設置率が 90％以上の運動部は、陸上競技 が 3 回、バレーボールと卓球 が 2 回、バスケットボールとソフトテニスが 1 回である。これら加盟率の高い運動部は広島県高体連組織の力となり、広島県高体連組織を牽引した役割を果たしてきたといえよう。

1947（昭和 42）年の広島県教育委員会調査[12] によると、高等学校において保健体育担当教員の免許所有者は 91.4％、免許外教員は 8.6％である。また、中学校では免許所有者が 58.3％、免許外教員が 46.7％であった。保健体育担当教員の免許所有者の割合は、中学校よりも高等学校で高く、このような教員は運動部活動の顧問教員としても実技指導に尽力したと思われる。

4.3. 30 年間の運動部員・加盟率の変化

表 3 は 1989 年から 2018 年までの 30 年間の広島県高体連運動部と加盟率である。これをみると加盟者のピークは、1990 年の 129,366 名であり、2018 年には 70,021 名と 59,345 名減少している。

運動部員は 1989 年が 44,292 名であったが、2018 年には 34,091 名に減少している。30 年間で 10,201 名の減少である。

表3 広島県高等学校体育連盟運動部員数・加盟率の推移（1989年～2018年）

西暦	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
運動部員数	44,292	45,250	45,177	45,685	45,059	43,281	41,650	39,848	36,228	34,819
県高体連加盟者数	129,172	129,366	125,613	119,269	113,481	109,176	105,419	102,061	96,000	95,466
加盟率（%）	34.8	35.4	36.4	38.9	40.1	40.2	40.1	39.6	38.3	37.0

西暦	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
運動部員数	33,925	34,646	34,556	34,774	34,274	35,096	35,227	34,639	33,382	33,291
県高体連加盟者数	94,194	93,868	90,837	87,295	84,798	80,424	78,499	76,083	74,178	73,116
加盟率（%）	36.5	37.2	38.7	40.3	40.6	43.8	44.9	45.5	45.0	45.5

西暦	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
運動部員数	33,745	34,145	33,869	33,868	33,884	34,443	34,795	34,850	34,434	34,091
県高体連加盟者数	72,771	72,978	72,907	72,914	72,652	72,282	71,613	71,341	71,047	70,021
加盟率（%）	46.4	46.8	46.5	46.5	46.5	47.7	48.6	48.9	48.5	48.7

広島県高等学校体育連盟資料より作成

加盟率をみると 1989 年 34.8％、2003 年 40.6％、2018 年 48.7％に上昇し、30 年間で 13.9％上昇している。

中沢篤史[13] は高等学校における運動部の加盟率は 1955 年～ 2001 年までの間、持続的に増加傾向を示していると報告している。本研究においても中澤の報告と同様に 1989 年から 2018 年までの加盟率は上昇傾向を示している。とりわけ 2018 年の加盟率は 48.7％に増加している。この増加はスポーツの大衆化や生活化が高校運動部にあらわれ、運動部の勝利志向から楽しみ・喜び志向傾向に変容してきているものと考えられる。

4.4.　スポーツの分類から見た運動部の動向

運動部の競技種目について、文部科学省学習指導要領体育編の分類に準じて以下のように分類した。

1）スポーツ (採点・測定競技)
2）スポーツ (球技)
3）スポーツ (武道)
4）スポーツ (競技型野外活動)
5）スポーツ（その他）

なお、スポーツ（ダンス）は、広島県高体連運動部にはないため、その他にした。

1）スポーツ (採点・測定競技)

①採点競技について

採点競技は、体操競技と新体操がある。体操競技の運動部員は、1990 年に 676 名、2018 年に 90 名と減少している。新体操は、1989 年に 332 名から 2018 年に 58 名と減少である。

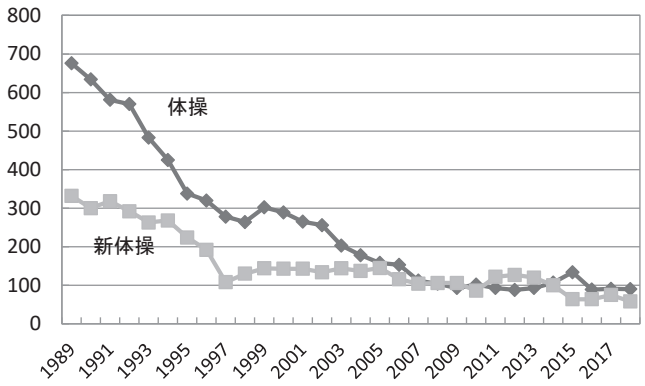

図1　採点競技における運動部員の推移

採点競技は、技術の高度化にともない器具の高額化、競技技術の高度化による指導者不足、実技の高度化による安全や事故、少子化が運動部員の減少理由として考えられる。

②測定競技について

測定競技は、陸上競技、水泳（競泳）、水泳（水球）である。陸上競技は 1989 年に 3,886 名、部員数が最も少ない 2005 年は 2,273 名、その後部員数が持ち直し、2018 年には 2,643 名になっている。一方の水泳（競泳）は、部員数が最も多い 1993 年の 953 名から 2018 年には 578 名に減少している。水球は設置校が限られており、部員数が 100 名を越えた年はない。

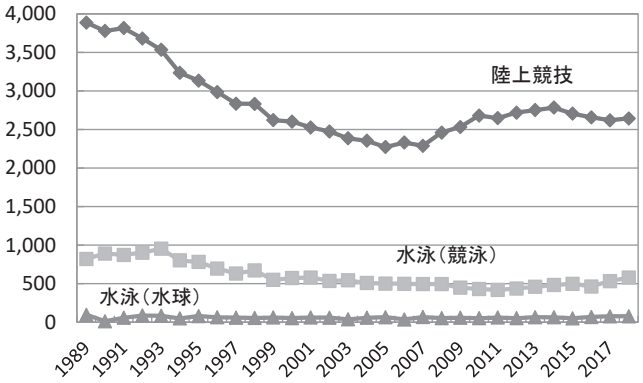

図2　測定競技における運動部員の推移

競泳は、屋外プールが設置されてきたが、年間の水中練習は不可能な現状である。近年では民間における温水プールの普及により年間水泳指導が一般的になってきた。競技志向の水泳は、民間温水プールに移行していることが考えられる。

2) スポーツ (球技)

①ゴール型について

図 3 には、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビーフットボール、ホッケーの推移について示した。バスケットボールは、1994 年の 5,749 名から 2018 年には 3,872 名に減少している。サッカーは、1995 年の 5,320 名から 2018 年の 4,368 名と減少しているものの、広島県高体連部員は他運動部よりも多い。ハンドボールは、1991 年に 758 名であったが、近年は 300 名台にまで減少している。ラグビーも 1990 年に 730 名であったが、近年は 300 名台にまで減少している。ホッケーは、1997 年に広島県高体連に加盟したが、それ以降部員数が 70 名を越えた年は少ない。

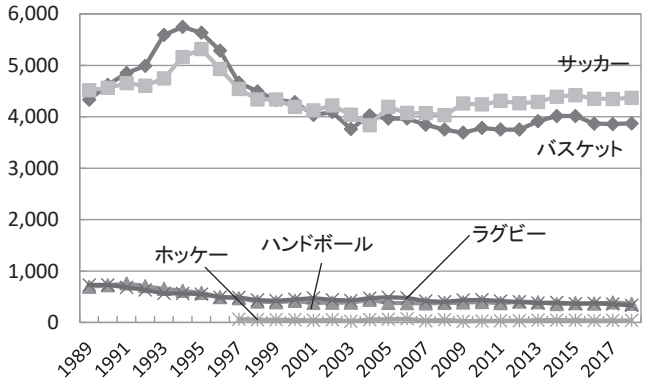

図3　ゴール型における運動部員の推移

バスケットボールやサッカーでは、マンガやアニメが部員増加に影響を及ぼしていることも考えられる。バスケットボールの「スラムダンク」や、サッカーの「キャプテン翼」などがそれである。サッカーでは 1993 年に開幕した J リーグ（プロサッカーリーグ）の影響も大きい。サッカーが一種のブームになり部員が増えたことも容易に推測できる。その後、部員数が落ち着いているものの、2002 年の日韓ワールドカップの開催をきっかけに増加傾向もみてとれる。

②ネット型について

ネット型は、バレーボール、ソフトテニス、テニス、卓球、バドミントンの 5 競技で、図 4 のとおりである。ネット型種目は、運動部員数の多数から見ると運動部活動では生徒に普及の大きい競技である。

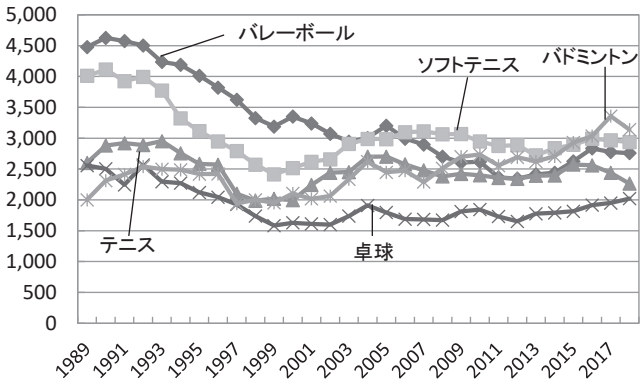

図4　ネット型における運動部員の推移

1989 年に運動部員数が多いのは、バレーボールが 4,479 名、ソフトテニスが 4,012 名、テニスが 2,600 名、卓球が 2,556 名、バドミントンが 2,001 名の順である。いずれの運動部においても 2,000 名を越えている。

2018 年ではバドミントンが 3,139 名、ソフトテニスが 2,938 名、バレーボールが 2,759 名、テニスが 2,264 名、卓球が 2,021 名の順である。

③ベースボール型について

ベースボール型の競技は、硬式野球、軟式野球、ソフトボールで図 5 の通りである。
硬式野球・軟式野球は、広島県高野連に属しており広島県高体連の所属ではないが、硬式野球・軟式野球を図に加えてある。

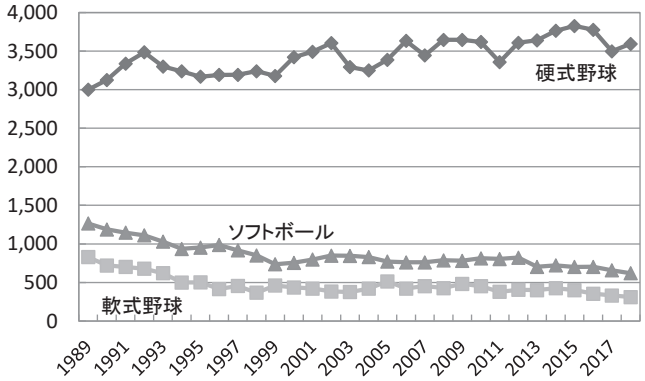

図5　ベースボール型における運動部員の推移

硬式野球は、1989 年に 3,000 名から部員数増加傾向にあり、2015 年には 3,594 名に増加している。また、ソフトボールは、1989 年の 1,265 名から 2018 年には 620 名に減少している。軟式野球は、1989 年に 829 名であるが減少傾向にある。

広島市にプロ野球の広島東洋カープ球団がある。広島東洋カープ球団は、「赤ヘル軍団」として広島県民に絶大な人気を誇っている。広島県高校野球界からプロ野球への道に進み活躍している選手も多数いる。高校野球が30年間で部員数が上向き傾向にあるのは、広島東洋カープ球団の存在と広島特有の風土として読み取れる。

④ターゲット型について

ターゲット型の運動部は、アーチェリー、ライフル射撃、ゴルフである。アーチェリーは、1989 年に 339 名であるがその後減少している。ゴルフは部員数が 100 名を確保するのが難しい現状である。

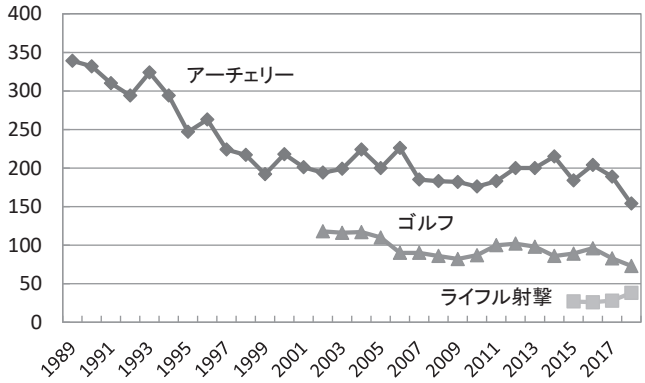

図6　ターゲット型における運動部員の推移

アーチェリー、ライフル射撃、ゴルフは、練習施設の確保など課題がみられる。

3) スポーツ (武 道)

① 武道について

武道の種目は、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、少林寺拳法、なぎなたがある。

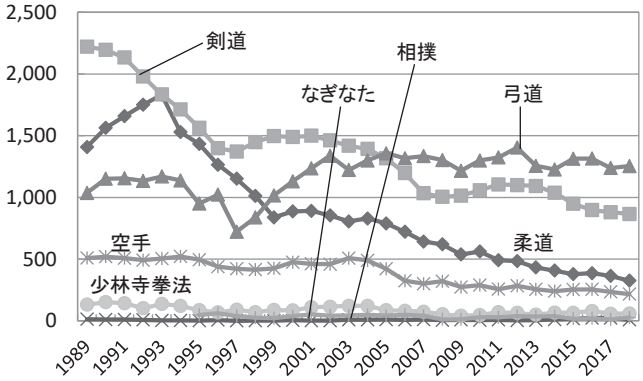

図7　武道における運動部員の推移

柔道の運動部員は、1993 年の 1,832 名をピークに減少し、2018 年には 325 名まで減少している。剣道は、1989 年の 2,222 名をピークに 2018 年には 865 名まで減少している。一方の弓道は、1993 年の 1,169 名のピーク時から減少したが、その後回復し、2018 年には 1,254 名である。空手道、少林寺拳法、なぎなたは減少している。武道では、弓道の運動部員が増加傾向を示しているものの、武道の 2 枚看板である柔道、剣道は減少傾向である。

② 緒外国の対人競技について

緒外国の対人競技は、フェンシング、ボクシング、レスリングである。

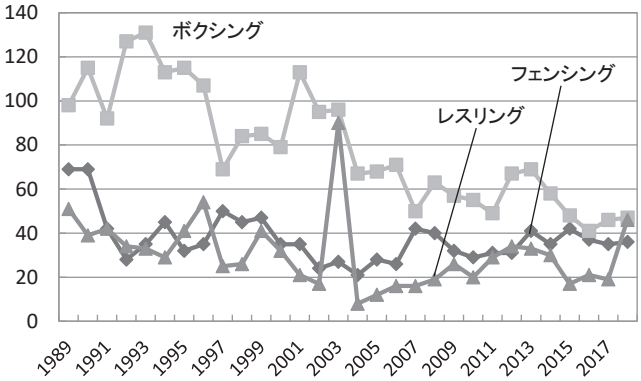

図8　諸外国の対人競技における運動部員の推移

図 8 を見ると、ボクシングは部員数が 100 名を越えた年もあるが減少している。レスリングの 2003 年の部員数急増の理由は不明である。

4) スポーツ (競技型野外活動) について

①競技型野外活動

競技型野外活動は、登山、スキー、ボート、ヨットがある。

登山は、1990 年と 1992 年に部員数が 500 名に達したがその後、減少傾向にある。スキーは 2018 年には 21 名に減少している。ボートは、1990 年頃は、部員が 100 名程度であったがその後部員数が減少している。ヨットは部員が 100 名を越えたことがなく、近年は 10 名程度に減少している。

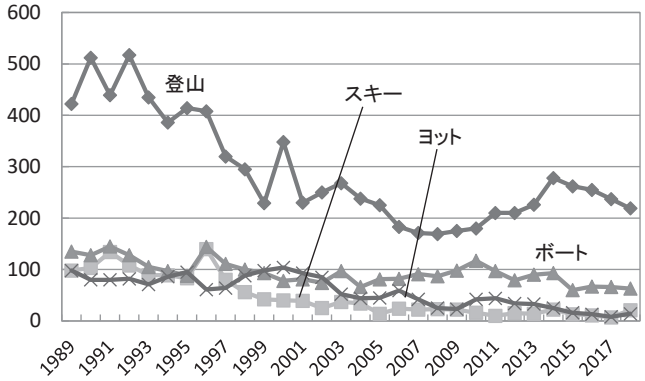

図9　競技型野外活動における運動部員の推移

登山、スキーは、山の自然相手の活動であり、一方のヨット・ボートは、海（瀬戸内海）や川での活動である。1960・1970 年代にキャンプ・臨海学校のような野外活動は学校行事で実施された背景があるが、自然の中でのスポーツは今日減少している。

5) スポーツ（その他）について

①その他競技（自転車、ウエイトリフティング、その他）

前記の分類に属さない種目として、自転車、ウエイトリフティング、その他がある。

図 10 は、自転車、ウエイトリフティング、その他における推移について示した。自転車は、100 名を越えた年もあるが減少傾向にあり、2018 年には 59 名である。ウエイトリフティングは、2018 年は 13 名にすぎない。

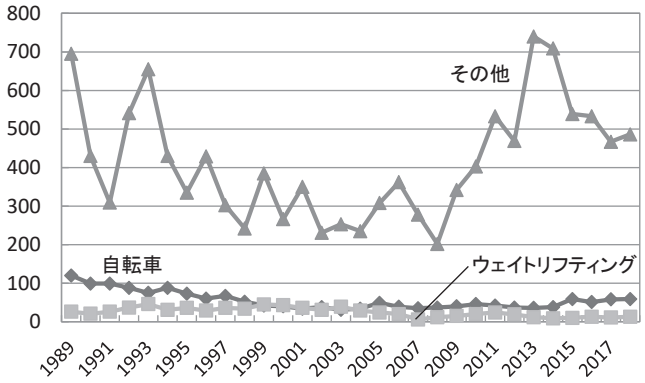

図10　その他の競技における運動部員の推移

2018 年の広島県高体連運動部に属しないその他の運動部は、486 名（チアリーディング 94 名､応援団･応援 85 名､ダンス 75 名､ワンダーフォーゲル 30 名､スポーツエアロビクス 28 名、合気道 27 名、馬術 21 名、スカッシュ 20 名、カヌー 11 名、アメリカンフットボール 3 名、サイクリング 3 名、他 31 名）であり、12 運動部がある。

4.5.　運動部と第 73 回国民体育大会出場

表 4 には第 73 回国民体育大会における高校出場者数、ならびに出場がある競技種目の高体連運動部員数について示した。なお各競技種目の分類は、文部科学省学習指導要領体育編の分類に準じた。

このように分類別に見ると､スポーツ(球技)が 126 名､スポーツ(採点・測定競技)が 38 名、スポーツ（武道）が 25 名、スポーツ（競技型野外活動）が 21 名、その他のスポーツが 21 名である。

第 73 回国民体育大会における広島県高校生の出場は 31 競技 231 名である。その内、広島県高体連運動部から 27 競技 206 名の出場がある。

2018 年の広島県高体連運動部において、運動部員が 50 名に満たない部からの第 73 回国体出場は、ライフル射撃、相撲、なぎなた、ボクシング、レスリング、スキー、ヨット、ウエイトリフティング、馬術である。広島県高体連運動部において、第 73 回国体不出場競技は、ホッケー、剣道、弓道、少林寺拳法、フェンシング、ボートである。

国民体育大会出場は、高校生に限定された全国高等学校総合体育大会とは違い、広島県代表として中学生・高校生・大学生・一般社会人が一堂に会する大会である。国民体育大会の開会式における入場行進は、広島県統一ユニホームを着用して都道府県別行進する。このことは広島県民意識を奮い越こさせる。

スポーツアスリートがオリンピックに出場し名誉と誇りを得るように、高校生の国民体育大会への出場経験は、今後のスポーツ行動の肥やしになると考えられよう。

表4 運動部員数と第73回国民体育大会広島県高校出場者

（人）

スポーツの分類	第73回国体県高校出場者数	県高体連運動部員数
1 スポーツ（採点・測定競技）		
① 採点競技		
体 操	5	90
② 測定競技		
水 泳	12	655
陸 上	21	2,643
2 スポーツ（球 技）		
① ゴール型		
バスケットボール	11	3,872
サッカー	16	4,368
ラグビーフットボール	23	334
② ネット型		
バレーボール	24	2,759
ソフトテニス	5	2,938
テニス	4	2,264
卓 球	3	2,021
バドミントン	3	3,139
③ ベースボール型		
軟式野球	14	311（県高野連）
ソフトボール	13	620
④ ターゲット型		
アーチェリー	2	154
ライフル射撃	3	38
ゴルフ	5	73
3 スポーツ（武 道）		
① 武 道		
柔 道	3	325
相 撲	4	7
空手道	3	216
薙 刀	3	26
② 緒外国の対人競技		
ボクシング	5	47
レスリング	7	46
4 スポーツ（競技型野外活動）		
登山（山岳）	3	219
スキー	12	21
ヨット(セーリング)	6	14
5 その他スポーツ		
自転車	5	59
ウエイトリフティング	3	13
馬 術	2	21
ボウリング	2	（県ボーリング協会）
スケート	1	（県スケート連盟）
アイスホッケー	8	（県アイスホッケー連盟）
合 計	231（競技団体等含む）	27,293（広島県高体連）

・広島県高体連運動部員数は広島県高等学校体育連盟資料により作成
・第73回国民体育大会広島県高校出場者数は第73回広島県国民体育大会選手団名簿により作成

5. おわりに

広島県中等学校スポーツ連盟の結成から 73 年が経過した。広島県高体連運動部の動向を以下の 5 点からまとめる。

5.1.　1955 年の高等学校運動部の設置状況

1955(昭和 30)年当時の広島県高体連加盟校は 82 高校である。各校における設置運動部は、陸上競技、水泳、バレーボール、バスケットボール、軟式庭球、硬式庭球、卓球、蹴球、ハンドボール、体操、ソフトボール、ラグビー、相撲、柔道、剣道、駅伝、山岳・スキー、ヨット・ボートの 20 運動部である。

運動部の設置が 10 部以上に及んだ高校は、誠之館高校 13 部、国泰寺高校 12 部、修道高校 12 部、宮原高校 12 部、皆実高校 11 部、基町高校 11 部、忠海高校 11 部、広高校 10 部、庄原高校 10 部の 9 校である。

5.2.　運動部加盟率の変化

1955(昭和 30)年の運動部設置数は 20 である。当時、加盟率が高いのは、陸上競技(88.2%)、卓球（82.9%)、軟式庭球 (80.3%)、バレーボール（77.6%）である。

1967（昭和 42）年は 31 部の設置であり、加盟率が高いのは、男子で卓球（93.9%)、陸上競技（90.4%)、バレーボール（90.4%)、女子ではバレーボール（91.6%)、卓球（85.5%）である。

1989（平成元）年の設置は32部である（その他の運動部については不明）。加盟率が高いのは、バレーボール（99.3%）、卓球（97.0%）、陸上競技（96.3%）、バスケットボール（93.3%）、ソフトテニス（90.3%）である。

2018 (平成 30) 年の設置は 33 部とその他が 15 部あり、計 48 部である。加盟率が高いのは、陸上競技（90.7%)、バレーボール（86.1%)、サッカー (79.8%)、バスケットボール・ソフトテニス (78.3%)、硬式野球（70.5%）である。

1955 年、1967 年、1989 年、2018 年の調査資料において、加盟率が 90％以上の運動部をみると、陸上競技が 3 回、バレーボールが 2 回、卓球 が 2 回、バスケットボールとソフトテニスがそれぞれ 1 回である。

5.3.　1989 年から 2018 年までの運動部員・加盟率の傾向

平成時代の 30 年間（1989 年から 2018 年まで）における広島県高体連運動部員と加盟率をみると、広島県高体連加盟者数のピークは 1990 年で 129,366 名であるが、2018 年には 70,021 名になり、59,345 名減少している。また運動部員数は 1989 年に 44,292 名であるが、

2018 年には 34,091 名に減少している。

しかし加盟率は 1989 年の 34.8%から 2018 年の 48.7%に増加している。

5.4. スポーツの分類から見た運動部の動向

スポーツの分類からみた運動部の変動をみると、以下のとおりである。

1) スポーツ (採点・測定競技)

①採点競技の体操競技・新体操は、運動部員数が減少している。

②測定競技の陸上競技は、運動部員が減少傾向にあったが、その後持ち直しつつある。水泳（競泳）は、緩やかな減少傾向が止まっている。

2) スポーツ (球技)

①ゴール型をみると、バスケットボールとサッカーでは部員数が増加後、若干の減少がみられたが現在では安定している。

②ネット型をみると、2018 年の運動部員が多いのは、バドミントン、ソフトテニス、バレーボール、テニス、卓球で 2,000 ～ 3,000 名の部員が在籍している。

③ベースボール型をみると、硬式野球の部員数は緩やかな増加傾向にある。

④ターゲット型を見ると、運動部員は減少している。

3) スポーツ (武道)

① 武道をみると、柔道は運動部員の減少が続いている。剣道は減少傾向にある。一方、弓道はやや増加傾向にある。

② 緒外国の対人競技をみると、運動部員の減少である。

4) スポーツ (競技型野外活動)

競技型野外活動は、部員が減少傾向にある。

5) その他スポーツ (上記の分野に属さない種目)

上記の分野に属さないその他の種目は、減少傾向である。

平成時代の 30 年間（1989 年から 2018 年まで）で部員が増加したのは、バドミントン、硬式野球、弓道である。また減少が顕著な運動部は、バレーボール、剣道、柔道、陸上競技、ソフトテニスである。

5.5.　運動部と第 73 回国民民体育大会出場

広島県における高校生の第 73 回国体出場者 (広島県高体連・広島県高野連・広島県体育協会競技団体) は、31 運動部（競技）231 名である。この内、広島県高体連加盟競技は、27 運動部 206 名である。

2018 年広島県高体連運動部において、部員数が 50 名未満で第 73 回国体に出場した競技は、ライフル射撃、相撲、なぎなた、ボクシング、レスリング、スキー、ヨット、ウエイトリフティング、馬術の 9 部である。一方、広島県高体連加盟競技種目において第 73 回国体への不参加は、ホッケー、剣道、弓道、少林寺拳法、フェンシング、ボートである。

謝辞

本稿を終えるにあたり、資料提供や指導・助言を賜った広島県高等学校体育連盟隠澤浩雄会長、平田 篤理事長、加藤 敦前理事長、大川いづみ事務局長、児玉はる香事務局職員の方々に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

1）広島市：原爆被害と復興，死者数について
http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1111638957650/index.html
2）「広島県高体連 20 年の歩み」広島県高等学校体育連盟 昭和 40 年 10 月 20 日 p6.
3）「広島県高体連 20 年の歩み」広島県高等学校体育連盟 昭和 40 年 10 月 20 日 pp8-9.
4）「広島県高体連 20 年の歩み」広島県高等学校体育連盟 昭和 40 年 10 月 20 日 p12.
5）「広島県高体連 20 年の歩み」広島県高等学校体育連盟 昭和 40 年 10 月 20 日 p13.
6）「広島県高体連 20 年の歩み」広島県高等学校体育連盟 昭和 40 年 10 月 20 日 p13.
7）平松 携・藤岩秀樹「高等学校における保健体育研究の動向に関する一考察 ― 広島県高等学校体育連盟の事例研究から―」尾道市立大学経済情報論集第 15 巻 2 号 2015 年 12 月 pp33-73.
8）平松 携・藤岩秀樹「高等学校における運動部活動・体育的行事の動向について ― 広島県高等学校体育連盟事例研究（61 年間）から―」尾道市立大学経済情報論集第 16 巻 2 号 2016 年 12 月 pp109-147.
9）財団法人全国高等学校体育連盟 : 統計資料 , 平成 30 年度加盟登録状況 .
https://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-30nen.pdf
10）スポーツ庁 : 平成 29 年度運動部活動等に関する実態調査報告書 .

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/06/12/1403173_2.pdf

11)「広島県高体連 20 年の歩み」広島県高等学校体育連盟 昭和 40 年 10 月 20 日 p81.

12)「保健体育の振興のためにⅡ ― 健康と体力の現状と課題 ―」広島県教育委員会 昭和 43 年 2 月 28 日 p64.

13) 中沢篤史「学校運動部活動の戦後史（上）―実態と政策の変遷―」一橋社会科学 3 巻 2011 pp25-46.